

以下の内容で開催予定であったが
感染予防対策のため、開催を中止

令和4年2月24日(木) 14:30~16:45

第三中学校 多目的室

令和3年度第4回境港市第三中学校区学校運営協議会 兼 第2回第三中学校区学校関係者評価

■司会(学校事務局) ■白板記載(第三中学校教務主任) ■記録(地域学校コーディネーター)

1. 会長あいさつ

2. 学校関係者評価に係る協議

(1)「〇めざす子どもの姿(4観点)」と「■実現のための今年度の方針・テーマ」の確認

○地域に誇りを感じる子ども

○心のやさしさ・強さをもち、何にでもチャレンジする子ども

○コミュニケーションができ、人と人のつながりを大切にする子ども

○学ぶ意欲や確かな学力・体力を身につけた子ども(生きる力)

■地域・家庭・学校で子ども達の安心感を育むことをねらいに、「子どもや大人」「大人 同士」が「心のつながり」を感じることができる取組(顔と顔が分かる。顔と名前が分かる)を広げる。

■今年度のテーマ『あいさつの響き合う学校・家庭・地域』

「朝のあいさつ活動(第三中:毎月10日)(渡小:第1月曜日)(外江小:毎週月曜日)」

子どもを中心に据えたCSの取組の中で、「それぞれの立場が目指したい姿」の視点	
学校(教職員)	学校教育活動に地域の人材を積極的に活用することにより、子どもの学びを豊かにできることを感じる。
家庭(保護者)	子どもとの温かい関わりを大切にし、進んで地域活動に参加しようとする。
地域(住民)	学校や子ども達と関わる学びや活動に参加することに有用感を感じ、地域づくりに意欲を持つ。
児童・生徒	地域の人との学習や活動を通して、人と人の関わり喜びを感じ、地域への愛着や誇りを持つ。

(2) 中学校区としての学校運営の振り返り

『上記「それぞれの立場が目指したい姿」の視点から』

【報告】(学校長より)

①3小中学校全体としてのアンケート結果に基づく「成果(手ごたえ)」と「課題」

②3小中学校全体に関わる「小学校段階」からの補足説明

1)渡小学校

2)外江小学校

③3小中学校全体に関わる「中学校段階」からの補足説明

3. 今年度の学校運営協議会の活動の振り返り

(1)今年度の活動報告について

①学校運営協議会として(学校事務局より)

②地域学校協働活動として(地域学校コーディネーターより)

(2)熟議について

①学校運営協議会としての熟議の位置づけの確認

②来年度の熟議の方向性

(3) 具体的な取り組みに向けた「部会」について

①専門部の確認

(ア)みんなで学ばいヤー…学習支援部

(イ)学校安全ジャー…学校安全・環境整備部

(ウ)絆つながらいヤー…地域貢献・地域交流部

※参考資料「三中校区 地域学校協働活動一覧」(市教委作成)」

②学校運営協議会としての専門部についての意見交換

(4) 来年度の第三中学校区「めざす子どもの姿」の継続・見直しについて

(5) その他

①内規について

②学校・地域連携プログラムについて(市教委 CS 推進員より)

③その他

(6) 来年度の計画(案)について

①年間計画

②来年度委員(任期2年)について

・「境港市学校運営協議会設置等に関する規則 第10条」

・内規

4. 副会長あいさつ

学校運営協議会の活動の振り返り

(1) 今年度の活動報告について（学校運営協議会として）

第1回:4月28日(水)渡小学校（兼 第1回学校関係者評価委員会）

- ・授業参観
- ・「次の一手」としての今年度の取組「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくり」
- ・ケヤキの一斉清掃活動の参画の一本化

第2回:6月19日(土)第三中学校（兼 熟議）

- ・当初は学運協委員(20名)・各校保護者代表(15名)・各小中学校教職員(25名)・学校支援ボランティア等(16名)・三中生代表(17名)の合計約100名を想定していたが、感染症対策のため規模を縮小(学運協委員20名、三中教職員16名、渡小教職員1名、外江小教職員1名、三中生徒会10名、三中3年学級長6名 計54名)。
- ・授業参観
- ・熟議Ⅰ:「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくりのために、今後それぞれの立場で取り組んでいくとよいと思われることを探そう」
- ・熟議Ⅱ:「地域のために、『子ども達と一緒にしたいこと、できること』『大人たちと一緒にしたいこと、できること』、話し合おう」
- ・協議会:地域学校協働活動に関わる近況報告及び熟議の課題・要望アンケート

第3回:10月24日(日)

- ・授業参観
- ・熟議の総括
生徒の感想「大人の考えを知り、良い刺激になった」「楽しかったし、勉強になった」「大人の考えを聞いて、生徒だけでは出ないような考えに触れることができた」「先生のエピソードも聞いて身近な存在に感じた」等
- ・熟議:「これまでの取り組み(何ができたか)」「これからの取組(何ができるか)ケヤキ並木の清掃活動とそれ以外について」
○地域グループ:ケヤキ並木清掃活動の充実等
○学校グループ:ケヤキ並木清掃活動の周知等
○家庭グループ:「十秒の愛」のリニューアルした取組についての各単Pでの協議
※三中校区小中PTA合同会議を12月15日(水)に開催し、各単Pで持ち帰って協議をすることを確認

第4回:2月24日(木)第三中学校（兼 第2回学校関係者評価委員会）

(2) 内規

- 学運協委員は原則20名とし、内訳は以下を原則とする。
 - ・小中学校長3名 ・PTA3名(各小中学校1名ずつ)
 - ・公民館関係者2名(各公民館1名ずつ) ・第三中学校区地域学校コーディネーター1名
 - ・第三中学校区学校支援団体等(自治会・民生委員を含む)6名
※小学校校長が公民館長と協議し選出(各小学校区より3名ずつ)
【令和3年度】地区社会福祉協議会、学校支援ボランティア、民生委員、自治会、公運審、青年会議所、外江保育園
 - ・保育園2名(わたり保育園・外江保育園より1名ずつ) ・事務局1名
 合計18名(必要があれば、委員2名を追加することができる)
- 事務局は3小中学校教頭で組織し、第三中学校区学校運営協議会兼校関係者評価委員会及び準備会、熟議の運営にあたる。
- 事務局長(1名)及び事務局選出委員(1名)は、校区校長会長の助言を受け、事務局内の協議をもって決定し、事務局長の所属する学校を学校事務局(事務局校)とする。
- 協議会開催の約1か月前には、第三中学校区学校運営協議会準備会を行う。
- 第三中学校区学校運営協議会準備会は会長が招集し、事務局長が運営する。
- 第三中学校区学校運営協議会準備会委員は、会長・副会長・校区校長会長・事務局員(各校教頭)・地域学校CNとし、アドバイザーとして市教委CS推進員の出席を依頼する。

令和3年度 第三中学校区学校運営協議会の振り返り (令和3年度 第三中学校学校関係者評価 報告)

【成果】

第三中学校区のみぎす子ども像「地域に誇りを感じる子ども」「心のやさしさ・強さをもち、何にでもチャレンジする子ども」「コミュニケーションができ、人と人のつながりを大切にする子ども」「学ぶ意欲や確かな学力・体力を身につけた子ども」の実現に向けて、今年度の活動方針を、地域・家庭・学校で子ども達の安心感を育むことをねらいに、子どもや大人、大人同士が心のつながりを感じることができるといえる取り組み（顔と顔がわかる、顔と名前がわかる）を進めていった。このことを実現するために「あいさつの響き合う学校・家庭・地域」を取り組みのテーマとして活動を行った。

3校を通じて行った活動は、「朝のあいさつ運動」や「ケヤキ並木清掃活動」への参加協力である。あいさつ運動に中心的に取り組んでいただいた民生委員さんや学運協委員さんの感想からも、会を重ねるごとに笑顔でのあいさつが返ってきたり、恥ずかしがっていた生徒がアイコンタクトでの会釈をしてくれるようになったりと、少しずつではあるが、顔と顔がつながる関係性を築きつつあることが伺えた。ケヤキ並木清掃についても、中学生の参加が増えたり、小学校でも教師からだけでなく児童会からの呼びかけを行ったりするなど、地域行事への参加に目が向き始めている。CS アンケート結果でも「地域のために自分ができることは協力したい」という設問への肯定的回答率は90%弱あり、意識も高まっている。

また、今年度は6月に第三中学校の代表生徒を交えて、大人と子どもの拡大熟議を行った。「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくりのために、今後それぞれの立場で取り組めること」「地域のために子ども達、大人達と一緒にしたいこと」の二つの議題で、大人と子どもが小グループを組んで考えを出し合った。この熟議を通して、日頃子ども達が、思った以上に地域のことについて考えていることを確かめることができ、今後の活動のヒントを得られるとともに、笑顔を交わして語りあえた時間にもなった。

このように、三中校区の取り組みは、大きなイベント形式のものではないが、顔を合わせての地道な取り組みを継続していく中で、大人と子どもが直接のコミュニケーションを行い、顔と名前がつながっていくという形が徐々にできつつある。

【課題】

年度末に、各校で行った学校評価とCSに係るアンケート結果を見ると、今年度「あいさつの響き合う～」を活動テーマにして地域をあげて取り組みを進めていこうとしていることは、家庭への浸透具合が今一つである。今後、各種便りや学校ホームページ等に、意識的に掲載するなどして周知を図る必要がある。また、実際のあいさつの様子は、まだまだ改善の余地があり、教師の指導だけでなく児童会・生徒会の自主的な取り組みや、地域でのあいさつの活性化を図る必要がある。そのための具体的な方策を考えることも今後の進展につながると思う。

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、市民運動会や公民館祭が昨年度に続き中止となった。三中校区では以前から市民運動会や公民館祭への中学生ボランティアの参加が盛んであったが、この2年間中止で来年度の中学生は1~3年生まで一度もボランティア経験がない生徒ばかりとなる。これまでの良い伝統をつなげていくためにも、この点の配慮をしなければならない。（来年度の中止も決定）

ケヤキ並木清掃への参加呼びかけは、今年度新たに小学校でも意識して行った。地域からは「親子連れの姿が増えてきた」「若い世代や子どもとの交流ができて良かった」などの声も上がっていたが、参加率としては半数弱なので、今後も呼びかけを続けていきたい。また、スポ少や部活の大会と重なるとの声もあり、参加を広げていくことについて考慮が必要である。

地域の方の教育活動への支援は、各校の教育課程や地域の実態に即した無理のない形で行われており、今後も継続して、豊かな体験やふれ合いの中で、幅広い奥行きのある教育活動を続けていきたい。そのためには、継続して協力していただける体制づくりということも意識する必要がある。

今年度で、第三中学校区がコミュニティ・スクールとしてスタートしての2年が終わる。前述したように、この2年間でよいスタートをきることができ、また、今後、進んでいく方向も整いつつある。しかし、コミュニティ・スクール

【資料④】

とはどんな組織なのか、これまでと何が変わったのかという根本的な認識が、具体的な姿で地域・学校・家庭に浸透しているのかと言えば、まだ不足している感は否めない。地域や家庭全体にコミュニティ・スクールの理念や目的が行き渡り、それぞれの立場でできる形で三中校区の子ども達の育成に関わっていただけるよう、今後も広報・啓発活動に努めなければならない。

令和3年度CS委員 振り返りアンケート

【あいさつについて】

- 「あいさつの響き合う地域・学校・家庭づくり」のテーマに対して「朝のあいさつ運動」や「ケヤキ並木清掃活動」への参加に拡大熟議以降『子ども達が主体的』に動き出したことは、とても良い方向へと進み始めていると思う。ただ、現状は一部の生徒の参加にとどまっており、今後さらに広めていく必要を感じる。
- 「あいさつの～」について、家庭への浸透具合が今一つである。PTA側の働きかけや取り組み方など考えていく必要がある。
- 目指す子ども像の実現に向け「あいさつ運動」を取り組んだのですが、課題にあったように家庭への浸透具合が今一つとありました。そもそもあいさつとは人と人とのコミュニケーションのツールの一つであり、運動として行うものではないと思う。練習してすべきことではなくて、出来ている、出来ていないとかの形ではないと思う。あいさつが出来なくても悪くはないのです。
- 取り組みテーマとして「あいさつの～」を設定したのは共通の目標ができてよかったと思う。先生方のご努力もあって生徒会や児童会の理解、参加が広がりつつあることを嬉しく思う。
- あいさつが響き合う地域にしようという合言葉に多くの皆さんが参加してほしい。地域行事への参加を知らなかった、めんどくさい、寝ていた。このことは、教育のしがいがありますね。
- 毎月「あいさつの日」に学校に行き、生徒や児童、先生方と一緒に朝のあいさつを行った。朝の少しの間ではありますが、子どもたちと会話を交わしたり、校長先生と話をしたり、なにより参加されている皆さんが顔見知りになり、情報交換をされていたのが良かったと思う。コロナ禍でも毎月継続して、三中校区共通の取り組みができた。
- 保護者の方には、この日に参加してくださいという事ではなく、CSが取り組んでいる課題に対して自分たちは何ができるのか、家庭で意識することは何かを考えてほしい。
- あいさつに関しては子どもたちのみならず、保護者や地域の方も同様で、子どもたちと関わる役員のみが行うのではなく、より多くの方に関わりを持ってもらうためにも、決められた日にとらわれず、「誰でも、いつでも、気軽に参加」出来るようにPTAでも呼びかけ、マチコみや配布物で告知をすることでより多くの方の参加機会が増え浸透させることが出来るのではないかと。
- 私の通勤時に会える生徒は必ずあいさつをしてくれ、あいさつも根がついてきたと感じる。

【拡大熟議について】

- 子どもたちの考えを聞くことができ、こちらも学ぶことが多くあった。
- 中学生を交えての熟議は、今後の活動計画や組織の在り方を考えることにおいても大変意義のある活動だった。中学生から出された意見を自分たちが中心となって地域や教職員の協力を得ながら具現化させるための活動が必要である。
- 生徒さんとの熟議はとてもよい取り組みだと感じる。生徒さんが、自由に自分の意見、気持ちを発言できる場を学校以外の場でも増やせたらと思う。
- 熟議を地域（公民館）やPTA主催で、学校以外の場所で行うこともできると思う。保護者と一緒に参加なら夜の開催も可能で、保護者さんが参加しやすいことも大事だと思う。

【ケヤキ並木清掃活動について】

【資料④】

- 小学生は保護者とともに・・・がメインとなりますが、定着していない(習い事のほうがメイン)と感じた。公民館祭りなど「遊び」が主眼になるものであれば子どもの意欲も高まると思う。
- 三中生の参加が増え、その中の少人数ではあるが顔と名前が一致する生徒ができた。
- ケヤキ並木清掃活動の呼びかけを校内放送で生徒が自主的に行い、生徒の参加が増えたことは、朝のあいさつ運動から民生委員さんやCS委員さんとの繋がり、地域との繋がりが増えたからだと思う。与えたり、与えられたり、お互いがより良くなる関係性、さらに役にたてる喜びを感じることができ、目指す子ども像に近づけたと思う。
- 子どもたちをやる気にさせるには、「地域の課題や自らの成長」の為にどのような事が出来るのかを「自分たちで楽しみながら考え行動」することが良い。保護者や先生、地域の方には、「子どもたちが主体的に考え、行動を起こす機会」を与える取り組みを増やし、子どもの行動をサポート出来れば。また、中学校に「ボランティアに関する掲示板を設置」し、生徒会からのボランティア募集や、地域からの募集を募るなどの参加機会を増やす取り組みや告知方法にも工夫が必要。
- 今までは自治会からの募集に生徒が参加するという仕組みだった。今回生徒会長の感想に「清掃ボランティアに参加して、三中生の姿がたくさん見られたので安心した、よかった」とあった。生徒会の呼びかけに応えてくれた三中生の姿を見て、生徒会長として安堵したのだと思う。自分たちが主体的に取り組むことで、生徒が気づくことや思うことも変わってくるのだと感じた。参加者を増やすことが目的ではなくて、参加した人(大人も子どもも)がどう感じるのかが大切。

【活動を広げる、伝えるについて】

- 拡大熟議や講演会の回数や人数を増やすことで、同じ想いを持った仲間を増やす。
- スローガンの看板やのぼりを制作し、学校や公民館など地域のかたも目にする場所に設置する。
- 取り組みについての動画を制作し、マチコミなどで配信する。
- 計画しているイベントや行事をCSの枠組みに入れる。
- PTAや保護者からCS活動に率先して関わっていける仕組みを作っていく。CSについて認識してもらうには時間がかかると思うが、いずれ点と点が繋がり線となり、これがCSなんだと気づいてくれる時がくると思う。
- 何か大きなことをするのではなくて、身近なイベントや普段の生活の中でCS活動をしていく今の取り組みは大賛成なので、この方針は続けてほしい。
- 市民運動会が中止になったのは残念だが、あいさつ、ケヤキ、CS会議等を毎年コツコツ積み重ねていくことが大切。
- 幅広く活動を行うよりも、今年度のように数を絞って地道に活動をしていけば、いずれ成果が現れると思う。
- CSを説明するのが難しい。もっと簡単なキーワードを見つけられたら。

【その他意見・感想】

- CSのスタートと同時にコロナ禍になり、会の開催や活動が思うようにできなかったのはありますが、無理のない中で地域の方との取り組みを可能な限り継続することができた。
- 子どもがやりたいこと、町づくりなどの提案ができ、地域総がかりで実現したい。
- この2年間で子どもから地域の大人への認知度が上がっていると感じる。地域の大人も子どもたちへのまなざしに変化がみられる。より一層地域の方への理解、浸透が必要と感じる。
- 成果ばかりを追い求めるのではなく、その過程を大切に、結果として「目指す子どもの姿」が実現できると思う。地道に地域の大人が学校に関わり、顔と名前が一致することを願います。
- 保護者さんの関わりを増やしていきたい。
- 委員が変わっても永続的に活動が自然に回っていくサイクルが出来るまでには相当な時間がかかると思うが、それに関わらず子どもたちは成長していくので、その中で何が出来るのか?を形にしたい。
- 2年間、高梨CNには精力的に動いていただき、学校と地域が繋がり学習活動を充実させることができた。ゲストティーチャーとして地域の方が子どもたちに思いを伝えることによって、子どもたちは自分の住むまちを見つめ

【資料④】

直し、地域を通して現代社会の課題についても興味関心を示すことができた。活動に制限がかかり難しい場面も多かったが、工夫しながら活動したことで子どもたちが地域に愛着を持つことに繋がってきている。

- 「読み聞かせ」や「しらお塾」など地域の方が学校を支えていこうという雰囲気はできてきている。
- 年間の活動予定を学校、保護者、地域が共有し、積極的に参加できる体制づくりがポイント。
- 生徒の地域での行動について学校に地域からクレーム電話するとか…そんな時学校は、電話の相手に謝罪ではなく「その行動はどうか？」と話してやって下さい、と堂々と言ってほしいです。地域での子どもの姿が、すべて学校の責任みたいな捉え方はおかしい。関わった人がアドバイスし、そこで子どもは人に助けられ、人を信頼し、地域がいい所だと感じる。子どもは、安心できる環境があるからこそ、どんな意見も言っているんだと思ひ話せる。親に叱られるから、先生に評価されるから、正解を求められるからと自分の本心が言えないような状況（学校）では安心して学べないと思う。何度かの授業参観で子どもたちは熱心に学ぼうと先生に従っている姿を見ると心が痛かったです。自分の意見を発表することが一番大事な目的なのに、手の挙げ方、椅子の入れ方、発表の仕方までパターン化されてまるで軍隊のようです。私のような意見をCSの立場で皆さんと真摯に討論できたらと思います。子どもたちのための会なので、CSのメンバーの意見も様々あって当たり前です。大人は同調力に弱く、評価を気にします。しかし、本根トークが出来ないと本当にやるべきことは見えてこないのでは。批判という意見と捉えないでください。来年度も少しでも子どもたちが生き辛さを感じることなく有意義な学校生活を送れるように力になりたいです。
- コロナ禍になり、今まで長年築き上げてきた三中生との関係性が途切れてしまいました。私の計画は、小学生の頃から地域に馴染み、中学生では自分たちで計画立案して、地域行事に参加して、地域行事継続のための方策を大人と一緒に考えて、意見を述べる事が出来る生徒を育て、その場を多く提供できるようにすることです。
- 教育に関心がなかったとは思わないが、CSへの参加を声掛けしてもらって早くも2年が経過しました。植田校長には学校へいつも出入りさせてもらい感謝します。変わったことはやっていないし、特別意識して行動したこともありませんが、高齢者と子どもたちと楽しく過ごせればと思って毎日やっています。テレビに映し出される最近の世界の出来事、目を覆い、胸を締め付けられます。子どもたちの教育が大切だなと。CSが少しでも役にたつことでなければ。
- 学校運営協議会としても、机上で考え、アイデアを練り、地域学校協働活動を通じて地域の皆さんに協力していただいていることをふまえ、今一歩進み、地域で共に汗を流す活動が必要である。いずれにしても「地に足のついた」活動を進めるべき。
- コロナ禍で多くの活動が中止となり、外江小の執行部会も回数を減らした中で、PTAでもCSについての話し合いは多くできなかつたと反省している。来年度の総会で承認されれば各校2万円予算を付けることができそうなので、活動の浸透のためにその費用を活用できればと思っている。
- 今年度は「外江おやじの会」が再結成され、外江小、渡小（渡 OYAJI の会）、三中（PTAOB）とも除草作業などに40代、50代世代の地域の方が参加してくれるようになった。どこまでがPTAでどこからが地域の人とか関係なく「地域の子どものために」と参加している。この先地域を担っていく人材がCSを通じて繋がりができたことは大きなことだと思う。委員の方々がCSに関わっていなかったらできなかつた。これからも地域学校協働活動を進めるにあたって、地域の方たちと楽しく活動ができる三中校区にしていきたい。
- 今回委員をしてみて、多くの地域の方が子どもたちのためにいろいろと協力して下さっていることが分かり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。